

A study on sideout ability and continual techniques that structures it in volleyball

-its possibility to bringing a victory in a game-

1K07A138-6 田中 紗葵

指導教員 主査 磯繁雄先生 副査 田内健二先生

I. 緒言

バレーボールはボールを3回以内の接触で返球する競技であり、他の競技とは違って特殊である。そのため、バレーボールにおいては3回以内の接触におけるプレーの正確性を高めることが極めて重要といえる。

バレーボールでは1999年にラリーポイント制が導入されたことでそれぞれの技術の重要性が増し、レセプションからの攻撃によって得点する能力が試合の勝敗を分ける大きな要因となった。

そこで本研究では「サーブレシーブを返球し、レセプションアタックを決める」という観点からレセプション、トスを段階別に評価し、そのラリーの結果サイドアウトを取ることができたか否かとの関連性から、チームによってどのような特徴があるのかを明らかにしたい。また、これら3つの連続する技術の成否が試合の勝敗にどの程度影響があるのか考察を行うことにより、サイドアウト力が試合の勝利にもたらす可能性について明らかにすることを目的とした。

II. 分析方法

2010年度秋季関東大学バレーボール女子1部リーグ戦でおこなった早稲田大学全9試合を対象とした。試合をコート後方より撮影し記録されたデータを後日再生、レセプション、トス、サイドアウトの成否について段階別に評価した。その後、評価したこれら3つの技術を組み合わせ、全ラリーに占める割合をチーム毎に算出した。得られた結果に関して、セットまたは試合の勝敗に関連して比較、考察をおこなった。

III-IV. 結果・考察

分析の結果、勝敗を分けた要因がレセプション成功率やトスの正確性、レセプションからの攻撃力などチームによってその特徴は様々であった。試合毎にみると早稲田の勝敗を分ける要因はいくつか挙がったが全体的にみると、レセプションでのミスとサイドアウト以外の要因という2つが勝敗を決定づけていると考えられた。

3つの連続するレセプション、トス、スパイクという技術においては、すべてが正しい形で組み合わせられていることがサイドアウトをするためには最も近い方法であることが明らかとなった。その中で、上位チームはサイドアウト力に長けており、中間位チームはトスの正確性や修正能力に優れている、下位チームはスパイクによる決定力が不足しているという特徴が明らかになった。しかし、これに当てはまらないチームも見受けられ、そのようなチームはその他の要因がサイドアウトの成否を左右していると考えられる。早稲田に関してはトスが乱れた際のサイドアウト率が低く、これを高めるためにはトスによるミスを限りなく0に近づけることが重要だと判明した。

V. まとめ

本研究の結果から、レセプションやトスの正確性、スパイク決定率が試合の勝敗を左右していることが明確なチームもいくつかみられたが、これらの要素に依存していないと推察されるケースも見受けられた。チームによりその特徴は明確であるため、自らのチームにどのような特徴があるのかを見極めることが重要といえる。

また、3つの連続する技術の成否に関して、その達成度と勝敗に関連性がみられたが、サイドアウトではなく他の要因から得点を重ねるチームもあり、サイドアウト能力がすべて試合を決定づけているとは言い切れなかった。今後、それぞれの技術の向上を図りサイドアウト率を高めること、また、何がサイドアウト以外の得点要因であるのかを追究しチーム作りに反映していくことが、バレーボールにおいて試合で勝利するために不可欠であるといえる。